

## 特許協力条約

PCT

## 特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)  
〔P C T36 条及び P C T 規則 70〕

出願人又は代理人 の書類記号 RM17-009PCT	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2005/005674	国際出願日 (日.月.年) 28.03.2005	優先日 (日.月.年) 29.03.2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. G09G3/30 (2006.01), G09G3/20 (2006.01), H03M1/74 (2006.01), H03F3/345 (2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) ローム株式会社		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a.  附属書類は全部で 1 ページである。

指定されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）

第I欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b.  電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関するテーブルを含む。  
(実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第I欄 国際予備審査報告の基礎  
 第II欄 優先権  
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成  
 第IV欄 発明の單一性の欠如  
 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明  
 第VI欄 ある種の引用文献  
 第VII欄 国際出願の不備  
 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 2007.07.20	国際予備審査報告を作成した日 2006.06.30
名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 福村 拓 電話番号 03-3581-1101 内線 3226

## 第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から次の目的のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文

国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

国際公開 (PCT規則12.4(a))

国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条 (PCT14条) の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

出願時の国際出願書類

明細書

第 1 - 9 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 3 - 1 3 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT 19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 2 \_\_\_\_\_ 項\*、13.02.2006 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 1 - 2 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3.  補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
 請求の範囲 第 1 \_\_\_\_\_ 項  
 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
 配列表 (具体的に記載すること)  
 配列表に関するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4.  この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
 配列表 (具体的に記載すること)  
 配列表に関するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性（N） 請求の範囲 2-13 有  
                  請求の範囲 \_\_\_\_\_ 無

進歩性（I S） 請求の範囲 2-13 有  
                  請求の範囲 \_\_\_\_\_ 無

産業上の利用可能性（I A） 請求の範囲 2-13 有  
                  請求の範囲 \_\_\_\_\_ 無

## 2. 文献及び説明（PCT規則70.7）

## ・請求の範囲 2-13について

請求の範囲 2-13に係る発明は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

## 請求の範囲

[1] (削除)

[2] (補正後) カレントミラー回路で構成されるD/A変換回路が所定の電流を入力端子に受けて表示データをD/A変換して有機ELパネルの端子ピンに出力するための駆動電流あるいはこれの元となる電流を生成する有機EL駆動回路において、  
前記カレントミラー回路の入力側トランジスタと前記入力端子との間に設けられた第1のトランジスタと、前記カレントミラー回路の出力側トランジスタと出力端子との間に設けられた第2のトランジスタと、前記出力端子と電源ラインとの間に設けられた第3のトランジスタとを有し、  
前記入力側トランジスタと前記出力側トランジスタと前記第3のトランジスタが前記第1および第2のトランジスタよりも耐圧の低いトランジスタであって、  
前記入力側トランジスタと前記第1のトランジスタの接続点と、前記出力側トランジスタと前記第2のトランジスタの接続点とは、実質的に同じ電位になるように、前記第1および第2のトランジスタがバイアスされる有機EL駆動回路。

[3] 前記第1および第2のトランジスタのそれぞれのゲートあるいはベースが所定の定電圧に設定されることで各前記接続点が実質的に同じ電位にされる請求項2記載の有機EL駆動回路。

[4] 前記第1および第2のトランジスタは、10V以上の電源電圧に対応する比較的高耐圧のトランジスタである請求項3記載の有機EL駆動回路。

[5] 前記第3のトランジスタは、リセットスイッチである請求項4記載の有機EL駆動回路。

[6] 前記第3のトランジスタは、前記駆動電流を発生する出力段電流源を構成するトランジスタの1つである請求項4記載の有機EL駆動回路。

[7] 前記出力端子は、前記D/A変換回路の出力端子であり、前記入力側トランジスタと前記出力側トランジスタとは、それぞれ電源ラインと基準電位ラインとの間において從属接続される複数のトランジスタで構成され、前記出力側トランジスタは、前記入力側トランジスタに対して並列に複数個設けられ、そのそれぞれが前記出力端子に接続されている請求項3記載の有機EL駆動回路。